

リコール検討会(1)

リコール検討会

- 自動車のリコールについて多角的な視点から議論を行うことにより課題を明らかにし、必要に応じて制度や運用の改善を検討。
- 平成19年8月より計7回検討会を開催し、平成19年度末及び平成20年度末にとりまとめを行った。
- リコールについて4つの課題を整理し、対応策をまとめた。

リコール検討会メンバー

- (座長)
- 畑村 洋太郎 工学院大学グローバルエンジニアリング学部教授
- (委員)
- | | | | |
|--------|-----------------------------------|-------|--|
| 磯村 浩子 | (社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会消費生活研究所長 | 大庭 松雄 | 日本自動車輸入組合参与 |
| 岩貞 るみこ | 自動車ジャーナリスト | 大橋 徹郎 | (独)交通安全環境研究所理事長 |
| 鎌田 実 | 東京大学大学院工学系研究科教授 | 新家 雅隆 | (社)日本産業車両協会フォークリフト技術委員会基準認証対応ワーキンググループ主査 |
| 郷原 信郎 | 桐蔭横浜大学法科大学院教授 | 高橋 武秀 | (社)日本自動車部品工業会副会長・専務理事 |
| 廣瀬 久和 | 東京大学大学院法学政治学研究科教授 | 富田 征弘 | (社)日本バス協会技術部長 |
| 保田 眞紀子 | 弁護士 | 中山 寛治 | (社)日本自動車工業会常務理事 |
| 吉川 暢宏 | 東京大学生産技術研究所教授 | 橋本 茂 | (社)日本自動車車体工業会専務理事 |
| 石田 富男 | (社)日本自動車整備振興会連合会理事 | 福尾 幸一 | (社)日本自動車工業会技術管理委員会
リコール制度検討会主査 |
| 井出 廣久 | (社)全日本トラック協会交通・環境部長 | 横野 茂樹 | (社)日本自動車連盟交通環境部長 |
| 井上 修 | (社)日本自動車タイヤ協会技術委員会委員長 | | |

リコール検討会(2)

19年度とりまとめ内容

(課題1) リコールに対する正しい理解の普及

ユーザーのリコールに対する理解を深めるため、以下のような認識を周知。

- ・自主的リコールを中心とするリコール制度は事故等の未然防止に効果的に機能していること。
- ・リコールの実施と並び、ユーザーの適切な使用、保守管理が重要であること。

(課題2) 自動車の不具合に係るユーザーへの情報提供の充実と不具合発生からリコールに至る過程の透明性の確保

- ・自動車・後付装置の不具合が原因と疑われる事故・火災情報をメーカーが国に報告した情報を公表。

平成21年6月11日より公表。

- ・国の「自動車不具合情報ホットライン」に寄せられた情報について、検索機能を充実することや装置別等の統計分析結果を提供することを検討。

不具合情報の統計分析結果については、19年度分について公表済み。

- ・新車時にメーカーが提供する情報について、より確実にユーザーに伝える方策等について検討。
- ・長期使用等の想定外の使用による使用過程の自動車の保守管理上の課題についてユーザーにメーカーが情報提供する方策を検討。

リコール検討会(3)

20年度とりまとめ内容

(課題3) リコールに至る自動車の不具合の発生原因の分析と削減方策

- 自動車のメーカーのリコールに対する姿勢の変化
 - メーカー各社の原因究明体制の強化
 - ・原因究明体制を引き続き強化、拡充するとともに、得られた知見を新たな車両の開発に反映。
- 使用実態と各種評価基準の乖離
 - 開発時の想定を超える使用環境や苛酷な条件での使用
(錆環境の変化、高速走比率の増加、使用実態の多様化、車両使用の長期化)
 - ・使用者が不具合発生の予兆等を認識しやすくなるよう、点検・整備項目、方法を見直すとともに、使用者にわかりやすく伝える。

(課題4) 使用過程の自動車の安全の確保及び環境保全のためのメーカーを始めとした関係者が担うべき役割の明確化

メーカー

- ▶ 設計時に想定した使用方法や保守管理方法について、販売時にユーザー及び整備工場に確実に情報提供。
- ▶ 販売済み自動車の想定外の使用等が不具合の原因となる可能性を認識した場合には、ユーザー及び整備工場に注意喚起。
- ▶ 想定外の使用による不具合発生時には、注意喚起やリコール等の措置を行う。

ユーザー

- ▶ リコールの通知や注意喚起に対して、適切に対応。

国

- ▶ 指針策定等により、メーカーに適切な役割を果たすよう促す。
- ▶ メーカーがユーザーに注意喚起を行う際の自動車登録情報の活用について、個人情報保護の観点を踏まえ検討。

整備工場・ディーラー

- ▶ 想定外の使用等がなされている場合等は、メーカーへの通知をすることが必要。

リコール届出一覧表

リコール届出日：平成22年2月9日

リコール届出番号	2466	リコール開始日	平成22年2月10日
届出者の氏名又は名称	トヨタ自動車株式会社 問い合わせ先： 取締役社長 豊田 卓男 トヨタお客様相談センター TEL 0800-700-7700 レタスインフォメーションデスク TEL 0800-500-5577		
不具合の部位（部品名）	制動装置（ABS制御コンピュータ）		
基準不適合状態があると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因	ABS（アンチロックブレーキシステム）の制御プログラムが不適切なため、ABS作動完了後の制動力が作動直前の制動力より低下することがある。そのため、ブレーキをかけている途中で凍結や凹凸路面等を通してABSが作動すると顕著な空走感や制動遅れを生じることがあり、そのまま一定の踏力でブレーキペダルを保持し続けた場合には運転者の予測より制動停止距離が伸びるおそれがある。		
改善措置の内容	全車両、当該制御プログラムを修正する。また、制御プログラム修正までの間の運転時の注意事項を、使用者に周知する。 なお、アリア(PHV)、SAI、レタス HS250h の3車種については、対策プログラムが準備でき次第、当該制御プログラムを修正する。		
不具合件数	84件	事故の有無	無し
発見の動機	市場からの情報による。		
自動車使用者及び自動車分解整備事業者に周知させるための措置	・使用者：電話もしくはダイレクトメール等で通知する。 ・自動車分解整備事業者：日整連発行の機関誌に掲載する。 ・改善実施済車には、運転者側ドア開口部のドアストライカー付近にNo.2466のステッカーを貼付する。		

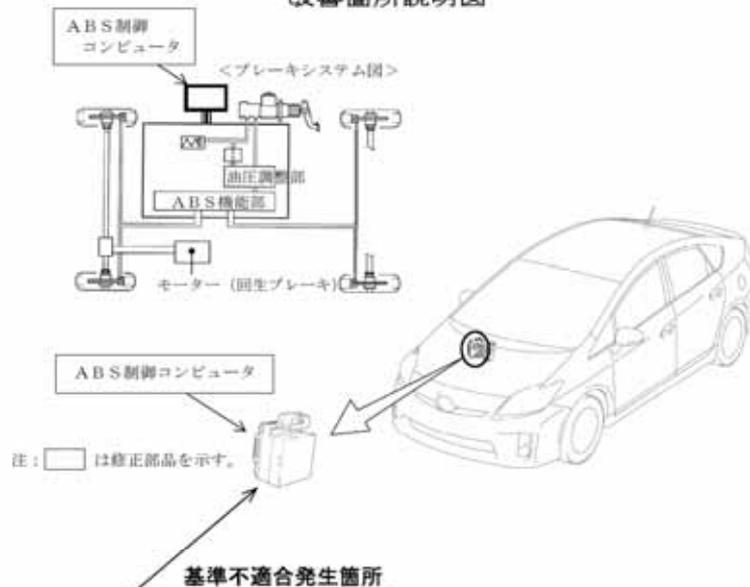
車名	型式	通称名	リコール対象車の車台番号の範囲及び製作期間	リコール対象車の台数	備考
トヨタ	DAA-ZVX30	アリア	ZVX30-0052877～ZVX30-0124227 平成21年 9月 4日～平成22年 1月27日	17,344	
			ZVX30-1000083～ZVX30-1157306 平成21年 4月20日～平成22年 1月27日	106,201	
			ZVX30-5000005～ZVX30-5118205 平成21年 4月20日～平成22年 1月27日	74,121	

車名	型式	通称名	リコール対象車の車台番号の範囲及び製作期間	リコール対象車の台数	備考
トヨタ	DLA-ZVX35	アリア (PHV)	ZVX35-3000120～ZVX35-3000382 平成21年 11月25日～平成22年 2月5日	159	
	DAA-AZK10	SAI	AZK10-2000150～AZK10-2010991 平成21年 10月2日～平成22年 2月8日	10,820	
レタス	DAA-ANF10	HS250h	ANF10-2000178～ANF10-2028690 平成21年 6月10日～平成22年 2月8日	12,423	
	(計4型式)	(計4車種)	(製作期間の全体の範囲) 平成21年 4月20日～平成22年 2月 8日	(計 223,668台)	

【注意事項】

リコール対象車の車台番号の範囲には、対象とならない車両も含まれている場合があります。

改善箇所説明図



ABS（アンチロックブレーキシステム）の制御プログラムが不適切なため、ABS作動完了後の制動力が作動直前の制動力より低下することがある。そのため、ブレーキをかけている途中で凍結や凹凸路面等を通してABSが作動すると顕著な空走感や制動遅れを生じることがあり、そのまま一定の踏力でブレーキペダルを保持し続けた場合には運転者の予測より制動停止距離が伸びるおそれがある。

改善の内容

全車両、当該制御プログラムを修正する。また、制御プログラム修正までの間の運転時の注意事項を、使用者に周知する。

なお、アリア(PHV)、SAI、レタス HS250h の3車種については、対策プログラムが準備でき次第、当該制御プログラムを修正する。

使用者への通知内容：運転時の注意事項

- ①空走感や制動遅れを生じた場合は、ブレーキペダルを踏み込むことをお願いする。
- ②ABS作動時は、ブレーキペダルを素早く強く踏み続けることをお願いする。

識別：改善済車両にはエンジンルーム内の右サスペンションタワー上部に黄色ペイントを塗布する。